



◇ 猿留山道状況調査 ◇

5月20日(木)と24日(月)、国指定史跡猿留山道の点検を行いました。

訪れる方が、安全に歩くことができるように、「案内標識」や「注意喚起」の看板を修繕し、山道を塞(ふさ)ぐ倒木がある地点を通行できるように整備しました。

山道を訪れる際は、クマ対策として「鈴など」(音のでるもの)を携帯し、ダニ対策をとって、ご利用ください。



写真上：注意喚起看板の修繕
写真下：山道を塞ぐ倒木の撤去作業

◇ 郷土資料紹介 ◇

今回は、「消防大八車」について紹介します。

腕用(わんよう)ポンプという手押し式の放水ポンプを載せた大八車です。

消防ポンプ車とも呼ばれ、現場に着くと、腕用ポンプを降ろして使いました。

腕用ポンプは左右にホースを付ける部分があり、水を吸い上げる側・放水する側になっています。

上部の窪みに棒をさし、それをシーソーのように上下させて吸放水します。

フランス消防隊が使用した腕用ポンプが、初めて日本に導入されたのは1875年(明治8年)のことで、それまでは出火した建物などを壊す「破壊消火」が一般的でした。

腕用ポンプが導入されたことにより、「注水消火」が行われるようになりました。

10年後、イギリス製の蒸気ポンプが導入されましたが、石炭でお湯を沸かすのに約20分もかかり、放水できる状態になるまで出動しないこともあったそうです。

大正になると、ガソリンポンプやポンプ自動車が登場しました。

水槽付ポンプ車が登場するのは戦後のことで、現在のような高圧ポンプで放水する消防車が登場したのは1954年(昭和29年)のことです。



写真：資料館に展示している「消防大八車」

地名の由来 ～ エントモ ～

原名「エンルム」の訛（なま）ったものです。

「エン・ルム」（En-rum つき出た・頭）岬のことです。

松浦日誌は、「リフンエントモ」の転訛（てんか＝ことばの本来の発音がなまって変化すること）であり、「レプ・ウン・エンルム」（Rep-um-enrum 沖・にある・岬）ということで、同一地名だと思われます。

ちなみに、「エンドモ」は「エントモカ」（Enrum-ka 岬・の上）の意味で、この岬をなす段丘の上の地名です。



写真：エントモ（三本岩付近）

施設臨時休館の延長について

北海道に緊急事態宣言が発令され、5月31日（月）まで休館となっていました。緊急事態宣言の延長を受け、6月20日（日）まで休館となりますのでお知らせします。

ご迷惑をおかけしますがご了承ください。



郷土資料の寄贈がありました

5月12日（水）、笛舞地区の方より、棹秤（さおはかり）3点・ところ天突（てんつき）1点・水瓶（みずがめ）2点、計6点の貴重な郷土資料品を寄贈していただきました。



写真（上）：棹秤（さおはかり）

写真（中）：ところ天突

写真（下）：水瓶（みずがめ）

6/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
休 館																
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7/1	2	3	4
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
休 館			○	休館日	○	○	○	生き物調査隊	○	○	休館日	○	○	○	○	○

6月～7月の
開館カレンダー